



町政を問う!!

生活習慣病予防・介護保険・ブックススタート
etc...。健康についての関心が高まる中、
今後町がどのような施策を展開していくのか。
六人の議員が町長に論戦を挑んだ。

Q 生活習慣病及び病院誘致について

A 生活習慣病の予防に努め、誘致については
今後町の医師会等と協議を行っていく

Q 南田議員

来年度（平成十五年度）
から始まる生活習慣病調査
を基礎にして、生活習慣病
の改善に役立て町民の健康
増進を図っていただきたい。

これに関連して生活習慣
病の一つに考えられている「腎
不全」の患者が増えており、
人工透析を受けるための人
工透析専門病院を熊野町に
誘致していただきたい。

A 面迫健康課長



熊野町では「腎不全」の原
因となる糖尿病患者が多い現
状である。人工透析を行える
施設の設置は県が管理してお
り、熊野町が属する圏域では

既に定数に達している状況で
ある。しかし人工透析施設を
設置できる可能性もあるので、
今後町医師会と協議しながら
検討を行っていく。

また、そういった生活習慣
病に至らないよう予防活動を
充実させるとともに、現在人
工透析を受けておられる方の
負担を軽減できるよう、福祉
施策の充実を考えていく。

Q 高所団地水道施設の取り扱いについて

A 高所団地の水道施設については
調査・検討を行っていく

Q 穂土議員

町内の団地の中には給水区
域外となっている地区が多い。
これらの給水施設を町の直接
管理とする考えはないか。

A 貞永水道課長

現在組合で管理をしてお
られる団地が八ヶ所あり、
高所のためポンプで増圧し
給水している状況である。
これについては、町で引取
りを検討しているがその条
件については、現在水道課
で検討中である。

その他の質問

Q 穂土議員

介護保険料の値上げ理由について
介護保険料が値上げされると聞い
ているが、その理由は介護サービス
の充実のためか、認定者数が多くな
ったためなのか。

A 上馬場福祉課長

介護保険料は、これまでのサービ
ス利用の実績を基に、十七年までの
給付総額を推計し算出するが、利用
実績が高く、給付費も伸びが見込ま
れることから、保険料の増額改正
はやむをえない状況となった。

Q 藤川議員

障害児童・生徒の対策は
小・中学校における心身障害児童・
生徒に対する介助指導員の現状及び
十五年度の見通しとその問題点は、
県費での介助員が不足する場合に
は町費で必要とする数の介助指導員
を雇用するべきかと思うがどうか。
四月以降の障害者数は何人か。

A 加藤学校教育課長

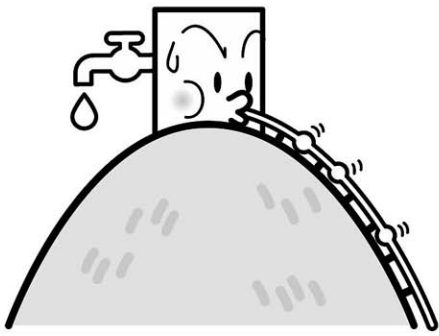
現在、介助員は第一小学校に一名、
第二小学校に一名、第四小学校に三
名お願いしている。介助員が必要な
場合は就学指導委員会において審議
された後措置を行うこととなるが、
これについての費用は全額町が負担
している。障害児は平成十四年度で
九人だが、平成十五年度では二十人
程度となる見込み。

Q 藤川議員

介護保険法が施行されて見直しの
年度に入るが、その現状と平成十
五年度以降の状況推計と問題点は、
法の改正で保険料が増額すると思
うが当町では増額分を一般財源
から補填する方策は講じないのか。

A 上馬場福祉課長

平成十二年度に策定した介護保険
事業計画を基に事業の運営を行って
きたが、サービスの利用が見込みを
上回る結果となった。これは、当初
懸念されていたサービスの不足は無
かったという見方をしている。平成
十五年度以降もサービスの需要は多
くなると見込んでおり、これにと
なつて介護保険料を上げる結果とな
った。平成十五年度からは介護保険
料基準額を四千八十円としたい。





Q 将来に禍根を残すな(市町村合併について)

A 今後の財政状況推計と町民アンケート等を判断材料とし決定を行う

Q 藤川議員

合併の可否について、計数的財政分析による推計を基本に、町民負担の最も少ないものと最も高い住民サービスとの積によって英断

すべきだと思うが、町は将来的にわたる財政とサービスの流れを推計しているのか。

推計が終わっていただければ合併の可否とその方向性を具体的に開示されたい。



A 平本町長

合併問題は将来的には避けて通れないものと考えている。しかし現段階で早急に行うのがよいのかどうかを検討する必要がある。熊

野町の人口動態等を加味した財政推計は行っていないが、今後とも情報収集に注意を払い、できるだけ正確な推計が行えるよう努めていく。また、近々行う町民アンケート調査の結果を参考に、今後のまちづくりについて十分検討し、議会と協議しながら最終的な判断を行うこととなる。

Q ブックスタート事業の実施を

A 建設予定の図書館内に読み聞かせスペースを確保するなど、現在実施している事業も含めて検討していく。

Q 福垣内議員

ブックスタート事業とは「絵本」を介して赤ちゃんに言葉と心を通わすことを応援する運動であるが、①幼児健診時に絵本、優良図書のガイドなどがセットされたブックスタートパックを贈呈する。②保護者が保健指導員やボランティアの接し方や、読み聞かせのアドバ

イスを受けられる環境作りをする。この事業を実施していただきたい。

A 面迫健康課長

このブックスタート事業については、年々各市町村において広がりを見せている事業であり、当町においても取り組みについて考え

ていく必要がある。現在では、妊娠中から子育て期間を通じた読み聞かせの重要性和楽しさ等を体験できる事業を実施しており、建設予定の図書館内にも読み聞かせのできるスペース等を確保する予定となっている。

Q 藤川議員

総給付額における町の負担は、介護保険法で十二・五%のみの負担で、一億四千九百万円となっている。

A 古毛建設部長

県が平成十二年度に策定した新道路整備計画における熊野・黒瀬間トンネルの今後の予定については、平成十六年度から用地の交渉が開始され、平成二十二年地に工事完了の予定となっている。

Q 福垣内議員

生活習慣病予防のための遊歩道整備計画について
生活習慣病予防には一日一万歩程度の適度な運動が良いと言われている。多くの町民はそのことを認識し、朝夕にウォーキングをされている。しかし安全な遊歩道が少ない。この遊歩道の整備計画は、宮本都市整備課長

Q 福垣内議員

遊歩道の整備については今後石神地区での緑地整備事業において三六〇メートルの歩道を設置、中央ふれあい館付近に公園の整備、東部地区では整備予定の深原地区公園内に約七七〇メートルの遊歩道を計画している。

A 和田生活環境課長

現在防犯等の設置は自治会と共同で行っており、これの設置費用と維持費に補助を行っている。防犯灯を設置する前段階で、自治会内での話し合いを行っていたというが、これが地域の防犯意識の高揚に繋がっていることから、当面は現在の方法で設置管理していきたい。



● グランドゴルフを楽しむ人たち

Q 芝生のグラウンドゴルフ場建設について

A 他のスポーツのグラウンド利用状況を考慮しながら今後検討していく

Q 馬上議員

グラウンドゴルフ愛好家は年々急増している。他の市町村の大会では芝生のグラウンドゴルフ場が多いと聞いているが、熊野町には建設計画はないのか。今ではソフトボール人口よりグラウンドゴルフ人口が多くなっていると言われている。現在計画中の東部運動公園

の一部を芝生のグラウンドゴルフ場にできないか。

A 出崎生涯学習課長

グラウンドゴルフは年々競技人口が増えてきている。ニユーススポーツであり今後も愛好者の増加が見込まれている。現在建設計画はないが、検討を行っていく。

A 宮本都市整備課長

深原地区に設置予定の公園は、多目的に利用できる広場中心型の公園整備とする計画となっている。グラウンドゴルフ専用コースとなると相応の面積が必要となるため、現段階では多目的広場ゾーンに行っていた。広場の利用状況を考慮しながら今後検討していきたい。

Q 生活習慣病予防対策事業の詳細について

A 町民の協力のもと、調査・分析等を行い町民全体の健康を推進していく。

Q 山野議員

生活習慣病予防対策事業の具体的な内容は、

- ① 事業内容
- ② 今後の予防対策
- ③ 生徒・児童の生活習慣病予防軍に対する対策

A 前土井総務部長

① 最少でも七千人の町民の方にご協力をいただき、生活習慣についての質問と血液採取・分析などの基礎調査を行う。その後、長期的な追跡調査により、体質や生活習慣と、がんをはじめとする生活習慣病

A 加藤学校教育課長

との関係を明らかにする。その結果がん発生のリスクが高い方に対しては、医療機関等への受診を勧めていくなどの内容となっている。

② 予防対策については、住民健診受診者への個別指導と保健サービスの実施、食生活改善や心の健康等についての教育の充実など、積極的に取り組んでいくための「健康増進計画」を策定していく予定である。また、同時に健康に関する講演会も行っていく。

③ 児童生徒の定期健康診断において、生活習慣病の予防的指導を行う必要があった児童は、全体の四・七％であった。これを改善するため、保健体育での教科指導はもちろん、給食だより、健康についての冊子「健康ブック・げんき」を全児童生徒に配布する等、健康について考えてもらえるよう取り組んでいる。

Q 福田内議員

A 平本町長

地場産業の後継者の育成を。また、地場産業に対しての町長の考えは、中国筆輸入の影響から、職人の減少、品質管理の低下などで「熊野筆ブランド」の弱体化が危惧される。現在の職人が健在のうちに後継者の育成をすべきだが、毛筆業者にはその余力が残っているのだろうか。今のうちに官民に一体となって後継者の育成を。

Q 馬上議員

管理職間の意思疎通について

A 平本町長

海田地区消防組合の行事が決定され次第、担当課と議会事務局には連絡して頂くようにしていたが、全員協議会と消防組合の行事が同じ日になるのは管理職間の意思疎通ができていないのではないかと。また、広島県監査委員研修会の日程が決定している日に全員協議会を開くのは監査に対する軽視か監査委員への軽視ではないか。

A 前土井総務部長

ご指摘のとおり総務担当と議会事務局の意思疎通が不十分であったために起きた問題である。今後このようなことが無いよう日程管理の徹底を指示した。

こうしたことが起こらないよう常日頃から課長会議等を通じて管理職への周知を行っていたが、徹底が不十分であったことを反省し再発防止のため、より一層の連携を密にした日程調整管理を行っていく。